

司法の判断は?

## 過剰宣伝は「国民の宗教感情に反する」との判決も



見性院の永代供養墓(上)と、橋本英樹住職(下)

司法が送骨自体を違法か否か判断した事例はない。しかし、インター ネットなどを使って大々的に宣伝し、送骨希望者を多數募ることなどを「国民の宗教感情に反する」としてもおかしくないなどとした例はある。

裁判となつたのは愛媛県伊予市の寺院。この寺院が送骨による永代供養を始めようとして市に経営許可を申請。寺院側は許可の可否が出る前

にネットで「ゆうパックを使つた簡単手順」「安心の低価格」などと宣伝し、全国から利用希望者の募集を始めた。しかし、市は2011年に不許可処分を決定。寺院側が処分の取り消しを求めて提訴した。

市が不許可処分とした理由は「事業は国民の宗教感情に反する」など。裁判はここが主な争点となつた。

松高裁も1審判決を支持した。

1審松山地裁判決は、①不許可処

にネットで「ゆうパックを使つた簡単手順」「安心の低価格」などと宣伝し、全国から利用希望者の募集を始めた。しかし、市は2011年に不許可処分を決定。寺院側が処分の取り消しを求めて提訴した。

市が不許可処分とした理由は「事業は国民の宗教感情に反する」など。裁判はここが主な争点となつた。

松高裁も1審判決を支持した。

1審松山地裁判決は、①不許可処

にネットで「ゆうパックを使つた簡単手順」「安心の低価格」などと宣伝し、全国から利用希望者の募集を始めた。しかし、市は2011年に不許可処分を決定。寺院側が処分の取り消しを求めて提訴した。

市が不許可処分とした理由は「事業は国民の宗教感情に反する」など。裁判はここが主な争点となつた。

松高裁も1審判決を支持した。

見性院の永代供養墓は山門わきにあり、花が手向けられていた。花が途切れることはないという。誰が供えているかは分からないが、もしかしたら送骨サービスの利用者なのかも

「絶縁していた親類の遺骨があるのですが…」などの相談を受け、どうしたらいいのか考えているときに送骨の話を聞き、人の役に立つ方法だと思い始めました」と話す。

利用者の事情は千差万別。橋本住職によると、自身で認知症を患つていた人の成年後見人が送つてきたこともある。墓じまいをしたが高齢のために遺骨を自分で運べないといふ人もいるという。橋本住職は「親の墓を子供が守るという時代は終わりつつあります」と話す。

斬新な試みなだけに、仏教界から

の反対はある。曹洞宗の内部文書では、送骨を「社会の要請に応えたものかといえば、それはノー」「供養する心を軽視し、壇信徒の信仰心を減滅させる、もしくは失わせる結果にもつながりかねない」などと批判している。

ただ、送骨のニーズは高い。見性院役僧の鈴木疏清さん(71)によると、年間に約150体の遺骨がゆうパックで送られてくるそうだ。「多い日は1日に10体送られてくることもあります」とも。

そして、送骨の利用者に信仰心や供養の気持ちがないのかといえば、そうではないという。鈴木さんは「法要をしてほしい」と言つてくる方もいらっしゃいます。それに、「送骨を考えているのですが」という仙台に住んでいる方が、わざわざ永代供養墓を見にきたこともあります」と話す。

見性院の永代供養墓は山門わきにあり、花が手向けられていた。花が途切れることはないという。誰が供えているかは分からないが、もしかしたら送骨サービスの利用者なのかも



永代供養墓とセット

## 「送骨」の現場を訪ねる

送骨で見性院に届いた骨壺

最近話題を集めている「送骨」。日本郵便が扱う宅配便「ゆうパック」を使って遺骨を寺院に送るというもう一歩進んだ形だ。遺骨は寺院の永代供養墓に納められるのが一般的だ。「供養する心の軽視」などとの批判もあるが、利用者は増えているという。送骨の実態をみてみた。

東京から電車で約1時間。群馬県との県境に近い埼玉県熊谷市の曹洞宗寺院「見性院」。この寺院は2013年から送骨のサービスを統一している。

見性院の送骨サービスの仕組みはいたって簡単。手順は①送骨を申し込む②見性院からゆうパックの送り状や骨壺を納める段ボールといった送骨セットが届く③骨壺をゆうパックで送る④見性院が供養したのち納骨となる。

料金は永代供養墓に直接納骨する場合は3万円、見性院が骨壺ごと10年間保管したのちに永代供養墓に納骨する場合は10万円。送骨セットで別途3000円が必要になる。

橋本英樹住職(50)は「『寝たきりで、妻の遺骨を納めに行けない』